



「安曇川中学校体育祭 全員プラス1脚」で

【特集1】平成21年高島市議会6月定例会 市長施政方針 ②・③
【特集2】守れなかった命を見つめて ④・⑤

お知らせ拡大版 ……	6-9	びょういんだより ……	15	そうだ図書館に行こう♪ ……	24
国保年金あらかると ……	10・11	タウンピックアップ ……	16	窓口だより ……	25
消費生活相談・省エネ ……	12	みんなで5・7・5 ……	17	歴史散歩 ……	26
教育委員会 information ……	13	たかしま市民協働交流センター ……	18		
健康生活 ……	14	暮らしの情報 ……	19-23		

街道沿いに栄えた物流拠点

「弘部野遺跡」

昭和56・57・61年度に、今津町下弘部から上弘部にかけての水田地帯で行ったほ場整備に先立つ事前調査によって、飛鳥時代から奈良時代（7～8世紀代）の弘部野遺跡と呼んでいる集落跡が発見されました。



▲弘部野遺跡（掘立柱建物跡）

これまでに発見されている建物跡は、半地下式の竪穴住居30棟と地上式の掘立柱建物20棟以上などがあり、大まかには前者は飛鳥時代、後者は

奈良時代を中心としたものです。

写真は、現在調査を進めている宇南郷地区で見つかった、柵で区画された中に比較的大型の掘立柱建物があり、少くも3つ位置をずらしながら、3回建替えられた様子です。古代の建物は、地面に穴を掘って、直接柱を埋め込んでいますので、建てられた場所の土質にもよりますが、30年前後で建替えが必要だったようです。建物の年代は出土した土器から、奈良時代の全般を通してのもので、同一場所に同規模の建物を100年近く維持していく必要があったものとみられます。

また、これまでの出土品の中で特に注目されるものに、内陸部の遺跡では、ほとんど出土しない製塩土器（海水を煮詰めて塩を作る容器）や古代製鉄の原料となる2〜3センチ大に小割りした鉄鉱石などがあります。

編集後記

目の前で握り拳を作ってみる。今、握りしめているものは…「細菌やウイルス！」と言われるほど、私達の身の回りには、無害有害な菌やウイルスが存在します。滋賀県でも感染者が確認された新型インフルエンザ。学校の休校やイベントの中止など、市民生活に大きな影響を与えました。今ではマスク姿が逆に目立つほど、落ち着いた感のある新型インフルエンザ騒動。品切れが相次いだマスクも購入できるようになるなど、冷静さを取り戻し、インフルエンザに対する危機感も薄れつつあります。「ノド元過ぎれば…」になりがちですが、インフルエンザは、「ノド」に来るまでの予防が大切。国内では終息の方向にあると耳にしますが、油断は禁物です。くれぐれも、今握りしめた手を洗うことと、うがいをお忘れなく。（広報担当O）

また、奈良時代の文献である『続日本紀』天平宝字6年（762）に「大師の藤原惠美朝臣押勝近江国浅

古代において、塩や鉄は、どこでも作れるものではなく、原料の入手しやすい地域の特産品として、都に納められていました。奈良の平城京から出土する若狭国からの荷札木簡の多数は塩で、大量の塩が年貢として都に送られていたことがわかっています。これらの塩は弘部野遺跡内を陸路で、琵琶湖の水運を利用して奈良の都へ送られていたと考えられます。弘部野遺跡の東部に展開する弘部野遺跡からは、多数の倉庫群が発見されており、塩の運搬や保管で、大きな役割を担ったとみられます。

井・高島二郡の鉄穴を各一カ所賜ると、高島の製鉄に関する記載が登場し、奈良時代の有力な官人・貴族たちが製鉄に関与していたことがわかります。高島市北部では、海津大崎で鉄鉱石の露頭がみられ、古代の製鉄遺跡も多く発見されています。弘部野遺跡の南に位置する饗庭野丘陵にも、古代最大級とみられる東谷製鉄遺跡が存在しています。

この様に、古代の政治・経済・文化を創造することに欠かせない必需品を都に安定供給する場所に位置する弘部野遺跡は、単にその仕事に従事した集落というよりも、何らかの公的な役割（駅家等）を担っていた可能性が今回の調査で高くなったといえます。（文化財課）

発行／高島市 編集／企画部秘書広報課
 〒500-1502 滋賀県高島市新旭町北畑505の5 築地
 ☎0740(25)8000
 http://www.city.takashima.shiga.jp
 info@city.takashima.shiga.jp